第184号
昭和40年8月1日

昭和29年10月15日
第三種郵便物認可

毎月1日発行
定価1部3円

8月の納税

（市税）市民税 第2期分
農業納期限 8月31日
（県税）個人事業税 第1期分
納期限 8月31日

納税貯蓄組合へ全戸加入しましょう。

小田原市納税貯蓄組合連合会

広報おだわら

発行所
小田原市役所
小田原市中1～900
編集兼発行人
堀内弘一

株式会社 文進堂印刷

全世帯配布

小田原市の人口
7月1日現在
人口 142,560人
男 70,793人
女 71,767人
世帯 33,299世帯
前月との比較
人口 355人増
男 188人増
女 167人増
世帯 136世帯増

台風シーズン近づく

がけくずれ、高潮に注意

避難準備は早めに

いよいよ、としも台風シーズンの接近をまえ、各自の防災対策をたてておき手まわしのよいことです。

今年は、昨年の台風被害をかえりみて、万全の準備をとのことで、市内各所に施設されてきました。

例年、酒匂川、早川、幕川などの氾濫が、特に、酒匂川、早川の流域は、市内の水害を考えて、河川の水の倉庫を確保し、また、工事中の応急資材を確保して、ことに発生に備えるとともに、各大、工事中の応急資材を確保して、ことに発生に備えるとともに、各大、工事中の応急資材を確保して、ことに発生に備えるとともに、各大

橋町の二農協を合併

飛躍が期待される市農協

橋町の両町、下田、豊田の四町村の農協が、今年、合併を行なうことになり、この八月二日から合併の認可がなされる予定です。

現況をみますと、橋町農協は、農業の衰退、農業人口の減少、農業の兼業化、農作物価格低下などの影響を受けて、経営の悪化をきたしたが、橋町農協の合併問題が、かねてから小田原農協への合併の問題が、かねてから小田原農協への合併の問題が、かねてから小田原農協への合併の

恐ろしい日本脳炎

予防にはまず蚊の退治を

暑さ、蒸さの季節となり、蚊の活動が盛んになりました。蚊は人へ、馬の間の媒介蚊となり、日本脳炎を伝播します。

この日本脳炎は、昭和25年頃までは、毎年数千人の患者が発生し、死亡率が高く、恐ろしい伝染病として日本国民の間に恐れられていました。

しかし、その後、ワクチンの開発、予防接種の徹底、蚊の駆除、環境衛生の改善などの諸対策が進められ、患者数は、年々減少し、昭和40年の発生は、1月から7月までの間に、全国で、わずか、10人の患者が発生しました。

この日本脳炎は、ブタ、ウシ、ウマ、ヒツジ、ヤギ、ニワトリ、ハト、ハクチョウ、ツル、ヒヨドリ、ツバメ、ヒバリ、ムクドリ、カラス、ヒヨコ

海や山で楽しい学習

小・中学校の夏季特別行事

キャンプ場に臨海教室 終わって下田・伊豆高原に無料宿泊の家用意

夏季特別行事が、今年も市内の各小・中学校で始められます。まず、7月21日に、本小学校が、西ヶ谷戸、本町小学校が、西ヶ谷戸キャンプ場で、臨海教室を開きました。

この夏休に、市内のみか・中学生が海や山で楽しい学習をするとのことです。

本町小児童の夕食のひととき

一泊二日の日程で、海水浴、魚類の観察、自然の観察、キャンプファイヤーなどを行なう予定です。

なお、この臨海教室は、市内の小・中学生が参加することになっています。

また、今年は、臨海教室のほかに、市内の小・中学生が、下田・伊豆高原の海の家に、無料で宿泊することになっています。

この海の家は、昨年、市内の小・中学生が、下田・伊豆高原の海の家に、宿泊したところ、海水浴、魚類の観察、自然の観察、キャンプファイヤーなどを行なう予定です。

この海の家は、昨年、市内の小・中学生が、下田・伊豆高原の海の家に、宿泊したところ、海水浴、魚類の観察、自然の観察、キャンプファイヤーなどを行なう予定です。

ことしも立派な作品を

創意工夫展と科学展

市内各小、中学校の、教育委員会、教育委員会、教育委員会、市内の、各小、中学校の、研究会の開催にともなって、毎年、行なわれる、創意工夫展と、科学展が、今年も、行なわれます。

この、創意工夫展と、科学展は、毎年、自分の、創意工夫、研究、の成果を、作品として、出品、出品、出品、出品